

2024年(令和6年)11月1日(金曜日)



## イリソ電子工業 秋田新工場を竣工



国内では2番目の工場となる秋田工場の外観

イリソ電子工業が建設を進めていた秋田工場（秋田県横手市）が完成し、10月31日に現地で竣工（しゅんこう）式が開催された。同工場はプレス、成形、めっき、組み立ての機能を備えたコネクタの一貫生産工場として、2025年4月の稼働を予定している。同社グループの生産工場としては、グローバルで6番目、国内では

### 国内第2の生産拠点 25年4月稼働予定

## コネクタの一貫生産展開

は茨城工場（茨城県常陸大宮市）に続く2番目の工場となる。横手第二工業団地に立地し、敷地面積5万8000平方、建屋面積1万8225平方（鉄骨造、2階建て）。敷地面積は同社グループの工場で最大規模だ。23年3月に着工し、今年10月に完成した。25年4月の操業開始を予定する。

コネクタ一貫生産工場としてプレス、成形、めっき、組み立てなどの生産工程が構築され、プレス機と成型機はそれぞれ約30台の設置を予定している。コネクタ組立機は最終的に150台程度を設置する。めっきラインは60段のラインを5本導入する計画。検査工程は、ほぼ100%自動検査を行う予定で、スマートファクトリー、優れた省エネ性能などをコンセプトに、付加価値の高い生産活



式辞を述べる鈴木社長

動を展開していく。工場建物には、地震対策や熱による建物膨張に対応できるつなぎ目である「エキスパンションジョイント」を導入したほか、冬場の雪対策も施した。生産品目は、車載用を主力とするフローティングBobコネクタやFPC/FCCコネクタなどを予定。車載用の重要保安部品の製造工場として高品質な生産を行う。

従業員数は当初50人程度からスタートし、最終的には200人規模まで増やす計画。将来的には、工場敷地内に、今回竣工した工場建屋と同規模の第2棟建設も計画している。



記念式典でテープカットが行われた

午前10時から実施された竣工式には佐藤定雄会長、鈴木仁社長、武田佳司取締役専務執行役員製造本部管掌ら同社幹部をはじめ、来賓の佐竹敬久秋田県知事、高橋大横手市長ら総勢約40人の関係者が参加した。

#### 横手市の人材を活用

神事後に行われた記念式典で、鈴木社長は「この日を迎えることができたことを大変喜んで、多くの関係者の皆さんにご協力いただき感謝している。国内第2工場建設を決めたのは約3年前。当時はコロナの時期だったが、当社の国内生産比率は20%程度だったため、顧客への安定供給のために国内第2工場が必要だと判断した。そして、茨城工場からの距離が多いことを考慮して候補地を選定し、その上で、横手市からの誘致活動の情熱もあり、この地に決めた。今後は横手市の人材を活用しながら世界にコネクタを届けていきたい」とあいさつした。

来賓祝辞で佐竹知事は「イリソ電子工業は車載用フローティングコネクタで世界トップクラスのシェアを持つと聞いている。自動車にとどまらず産業界全体に貢献する企業が秋田に工場を設立したことは喜ばしく、われわれもしっかりサポートしていく。地域の発展をけん引していくことを期待している」と述べた。高橋市長は「イリソ電子工業の国内第2工場完成を喜ばしく思っている。横手市としてもサポートにまい進していく」と語った。

続いて、建設を担当した横手建設の関係者への感謝状贈呈、祝電披露の後、テープカットが行われた。式典終了後には工場見学、記念祝賀会が催された。

工場内には、同社の創業以来の歴史や開発製品の軌跡を紹介するパネル展示コーナー、グローバルマップなども設置している。

同社が秋田工場設立計画を発表したのは22年3月だった。社会情勢が目まぐるしく変化し、自動車の電動化加速、コロナ禍を発端とするさまざまなリスクの回避、国内での生産拡大、BCP（事業継続計画）・地産地消の観点からも新たに国内に生産工場を作ることが急務だと判断した。そして、再生可能エネルギー発電の導入を積極的に進めている横手市への工場建設を決定した。横手市は同社創業者である佐藤会長の出身地でもある。